

< もくじ >

はじめに 中津市社会福祉協議会 会長 新貝正勝

第2次発展・強化計画検討委員会 委員長 衣笠一茂（大分大学教授）

第1章 概要

第1節	中津市の状況	1
第2節	中津市社会福祉協議会の現状	3
第3節	第2次発展・強化計画策定の趣旨	8
第4節	第2次発展・強化計画の期間	8
第5節	第2次発展・強化計画策定の体制	9
第6節	第2次発展・強化計画策定の経過	10
第7節	第2次発展・強化計画の位置付け	11

第2章 現状と課題

第1節	第1次発展・強化計画の評価	12
第2節	第2次発展・強化計画に向けて	32

第3章 基本的な考え方

第1節	基本理念	33
第2節	基本的視点	33

第4章 実践による市民への寄与

第1節	達成目標～5年後の中津市社協像～	35
第2節	第2次発展・強化計画策定の体系	38
第3節	強化項目Ⅰ『総合相談支援体制基盤の確立』	41
第4節	強化項目Ⅱ『福祉サービスの開発と展開』	43
第5節	強化項目Ⅲ『“生きがい”につながる福祉活動と ボランティア活動の環境構築』	48
第6節	強化項目Ⅳ『地域福祉ネットワークの実現』	51
第7節	強化項目Ⅴ『効果的・効率的な経営基盤（組織・人材・財政）の確立』	54

第5章 第2次発展・強化計画の進行管理及び評価

第1節	進行管理	64
第2節	評価方法	64

[資料] …紙出力ができるようにデータを準備しています。（総務課）

■第1次発展・強化計画 行動計画P D C Aシート

■第1次発展・強化計画 評価シート ■第1次発展・強化計画 評価添付資料

■策定の経過（スケジュール表） ■検討委員会名簿

■プロジェクトチーム・ワーキング・サブグループ名簿

5年後の中津市社協像「住民と共にある社協」～福祉の里へ～

少子高齢化が進む地域社会の中で、国の施策は、誰もが住み慣れた地域で住み続けられるような地域社会を目指した地域包括ケアシステムや障害者総合支援法、生活困窮者の自立に向けた施策など、地域の力で支える仕組みづくりへ注力しています。中津市においても、福祉の里づくりを根幹とした「地域住民のつながりによる愛の輪」を目指し諸処の福祉施策に取り組んでいます。

また、昨年起きた九州北部豪雨災害は、改めて地域のつながりの大切さを再認識したところであり、中山間部の過疎地域の生活課題は、今後の中津市全体の課題となりうる状況になりつつあります。このような中、中津市社協では、国や県、市の動向、地域福祉計画や地域福祉活動計画を鑑み、連携、協働しながら中津市社協の地域への役割を果たすべく、福祉の里づくりに向けた第2次発展・強化計画の策定に取り組みました。

第2次計画の策定プロセスは、第1次計画の評価から始まり、ワーキンググループの作業、サブグループでの演習、プロジェクトチーム会議、検討委員会議などの意見を総合的に合わせながら組み立ててきました。そのプロセスを通じて見えてきたことは、第1次計画から続いている中津市社協の「基本的な考え方」と社会の変化に応じて、今後5年間で中津市社協が重点的に取り組むべき「強化項目」をつなぐ意味を持つ「5年後の中津市社協の将来像＝5年後の達成目標」を明確にすることが重要であり、それがより確かな中津市社協の存在意義・ミッションとなるということです。

地域社会が変化し、住民の生活福祉課題も変化していく中、地域福祉を推進していく社協としては、中長期的な将来像を明確にしておく必要があります。第1次発展・強化計画でたてた基本理念のキーワードである「つながり」を軸にしながら、第2次計画では「5年後の達成目標」として、一歩前に進み、「住民により近い存在」としての立ち位置にいる社協として「住民と共にある社協」という言葉で表現しました。

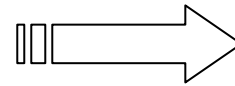
「住民と共にある社協」とは、

地域住民の身近に存在し、地域の変化やニーズを敏感にとらえ、その解決に向けて多様な人財の参画を促し、さまざまな社会資源を活かしながら、安心できる地域社会をつくっていく

ということです。この言葉の中には、「気軽に相談でき、解決につなげられる社協」「地域ニーズに対応できる社協」「地域活動支援のできる社協」「専門性を活かし、地域に還元できる社協」という具体的な将来像を含んでおり、これらを通じて住民に「信頼される社協」として存在していきたいという気持ちが込められています。

具体的な将来像は、第2次計画の強化項目内容ともつながっており、また、どの将来像も地域住民の協議体である社協としては当たり前のことです。しかし、改めて基本的な姿勢に立つことにより、地域社会の変化に対応しながらも、翻弄されることなく、「心とこころ 人とひととの“つながり”」が大切にしなければならない基本であることを、役職員・地域住民とが共有しながら、地域のつなぎ役である社協として5年間、地域と共に歩んでいきます。

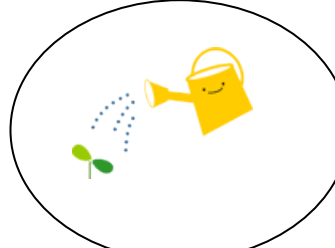
○目標とする5年後の社会福祉協議会像



『住民と共にある社協』～福祉の里へ～

- 信頼される社協
- 地域活動の支援ができる社協
- 地域のニーズに対応できる社協
- 気軽に相談が出来、解決につなげられる社協
- 専門性を活かし地域に還元できる社協

○その実現へ向けて具体的に取り組むべきこと
中津市社会福祉協議会はこちら(強化項目1~5)を取り組みます。



「基本理念」を(土壌)としI~Vの「強化項目」という(水)や(栄養)により具体的な社協像である(枝葉)を伸ばしながら『住民と共にある社協』～福祉の里へ～というしっかりとした《幹》となるのです。

《幹》を太くし続けてゆきます!!

IV. 「地域福祉ネットワークの構築」



地域の潜在的な(地域力)を引き出し“つながり合え”地域の中でお互いに支え合える(共助)の体制を実現します。

I. 「総合相談支援体制基盤の確立」



日常生活において支援が必要とされる方へ地域社会で一体的な支援が行える体制(地域包括ケアシステム)づくりの実現に向けて、多様なケースに迅速に対応の出来るワンストップ総合相談支援体制の基盤を確立します。

II. 「福祉サービスの開発と展開」



少子高齢化の進展や核家族化など地域社会の変容による高齢者・障がい者・子育て世代等の多様なニーズを地域の福祉課題と捉え、地域の特性を活かし地域に密着した新たな福祉サービスの開発と展開を推進します。

III. 生きがいにつながる福祉活動とボランティア活動の環境構築



一人ひとりの持つ住民の力が最大限に引き出され(エンパワメント)発揮できる地域社会の実現に向けて、それぞれが“生きがい”をもって地域の福祉活動やボランティア活動のできる環境を構築します。

V. 「効果的・効率的な経営基盤(組織・人材・財政)の確立」



中津市社協の基本的な考え方に基づいた地域福祉事業を推進していくためには平時・非常時(災害時等)の基盤を強化する必要があると考え、専門性が発揮できる人材育成と役職員が一体となった組織展開、法人としての財政基盤の在り方を明示し、より効果的で効率性を重視した経営を確立します。

2013/9/5 衣笠教授による ワーキンググループ演習より

